



長浜 音一 議員

都市計画を問う

問 ①都市計画および都市計画道路の取り組みについて②(仮)南古河駅は駅舎以前に周辺インフラや幹線道路の整備(国道354号や筑西幹線道路延伸等)と古河駅周辺の活性化策の検討が先決だが見解について③古河駅東部土地区画整理事業の文化交流拠点とした同地域を非公開で公募型総合評価方式による業者選定を行い、内定者なしであったが再公募について伺う。

答(企画政策部長) ②まちづくりの推進は新駅利用者の増加を喚起するものであり、市民との合意形成を図りながら駅舎建設と区画整理事業等による周辺のみまちづくりの歩調を合わせ進めていくことが重要である。

答(都市建設部長) ①中長期的な視点での都市の将来像である都市計画マスタープランに沿って市が定める個別の都市計画の決定や変更を行う。昭和13年に計画され未実施の都市計画道路もあり、よりよい道路網になるよう来年度から見直しを検討していく。③公募内容の検証や業者への聞き取り等を行い、不成立の要因であった安全性を市が確保して再公募できるよう準備を進めている。

学校教育を問う

問 学校のICT教育の環境整備には、ハード面整備とともに校内の協力体制や学校外からの支援体制の構築が必要である。組織的・人的なサポート体制づくりが課題だが、今後の対応は。

答(教育長) 校内の協力体制の実現・具現化、地域や民間とのサポート体制の構築については実際に活用している例もあり、関係者と協議・検討をしながら前向きに考えたい。



地域ボランティアによるICT教室

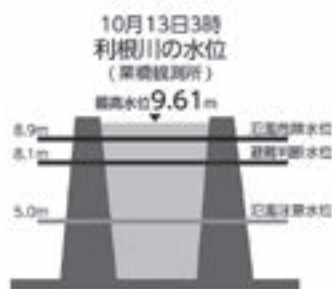


秋庭 繁 議員

市の防災計画、台風19号の避難指示、危機管理について

問 台風19号による災害対応を今後どう生かすかが問われている。①市の台風情報に基づく判断対応の問題点と教訓について②市民に対する連絡の在り方、障がい者、独居老人への対応、避難所の数や運営について伺う。また、国は2年前、洪水想定を従来の百年から千年に1度に変えるよう義務づけている。③新しいハザードマップはどこが変わり、いつ配布されるのか。

針谷市長の危機管理について、市長は、タイへ旅行しているが、情報公開に依拠していない。④目的や費用について⑤海外渡航時に古河市では職務代理を置かない理由について伺う。



想定を超えた利根川の水位

答(市長) ④費用は自費であり、自身の研究、研修を深めるためである。⑤職務代理者の設置基準があり、意思決定や職員の指揮監督が困難なときに限り、職務代理者を置くことになってい

る。通信がグローバルになり、電話やメールが可能のため、職務代理者を置いていない。

答(生活安全部長) ①情報に基づく判断、問題点と総括については、現在検証作業を進めている。②市民に対して、防災行政無線や消防団による広報活動など多様な手段で情報伝達に努めた。障がい者、独居老人等への対応については避難所における福祉避難スペースの確保などが課題となった。避難所は市内全32カ所を開設し、備蓄品や運営職員の不足などの意見が多く出た。③防災啓発のためのガイドブックやマイタイムラインが作成できる仕組みを設けるなど、市民の避難行動に役立つものになりたいと考えており、4月に全戸配布予定である。